

昨年に上記演題にて講演させていただきましたが、後半では前回のおさらいの後、「歯根膜・被圧変位量・可視化」をキーワードとしてお話しさせていただきます。

スーパーエンジニアプラスチックの PEEK や PEKK を歯冠内部に併用することにより衝撃吸収作用のある可撤式のインプラント上部構造を補綴設計した。それにより、インプラント上部構造内部のチタンアバットメントや PEEK や PEKK に対して咬合圧などの機能圧が可視化され、被圧変位量を計測することが可能となった。

また 1 年半の術後経過から見えてきた、咬合圧・咀嚼関係・主機能部位・被圧変位量・補綴材料などの機能的考察や、STL デジタルスキャンデータを活用した診査診断など私自身の考えも踏まえて、最後に製作された臨床例をお話しさせていただき、出席された方々とインプラント上部構造、コーヌステレスコープ、天然歯などに応用したサンプル模型で着脱回数をカウントしながら直に手に取って体験していただき、スーパーエンジニアプラスチックの PEEK や PEKK の未知の可能性やインプラント上部構造による機能圧など力と咬合の関係等、諸先生方による知見など、活発なディスカッションが出来れば幸いです。